

# 福井国体後引退決意か？

## 金井と裏切られ3度目の勝負は

舞鶴若狭自動車道全線開通、中部縦貫自動車道も大野まで開通。遅ればせながら北陸新幹線も金沢―敦賀間開業に向けて着々と工事が進み、懸案であった「小浜ルート」も決定し目途が付いた。年月を要した足羽川ダムも、停止していた高浜・大飯原発4基の再稼働もこぎ着けた。来秋には本県50年ぶりとなる「福井しあわせ元気国体」が開催される。

新・新福井元気宣言の4期16年、74歳を迎える西川一誠知事にとって引退の潮時。いつまでもしがみ付かず来秋の福井国体後に引退表明し、後継にバトンを渡すと思われる。

### 後期高齢者になる知事に 将来の期待できず

昭和20年1月2日生まれの西川一誠知事、年明け73歳。再来年春に5期目出馬となれば74歳となり、任期中に後期高齢者の仲間入りだ。国家公務員、官僚、副知事、知事に関西大学政策創造学部客員教授と50年過ごし、税制改正に盛り込まれた、いわゆる「ふるさと納税」制度のバクリ発

案者として名を馳せた。知事在職4期16年の実績を残して十分ではないか。これ以上続けると西川人派の「独裁」を招きかねない。

西川知事は当時の栗田幸雄知事の引退によって栗田県政の後継者として、平成15年4月高木文堂氏を4万6041票差の24万5538票を獲得

し副知事から福井県知事に初当選した。平成18年西川知事を支援する政治団体「福井県経済産業政治連盟」を地元経済界が中心となって立ち上げ、その後も農業団体、建設業会が政治連盟を強化し各団体の既得権益者との結束は固く、更に電力、医師会、介護施設運営事業者団体に至るまで支持母体は強固。さらにきめ細かく教育者、行政マン、各種団体への個人表彰など細部にわたり4期15年間積み上げる。また県下の小、中、高校生の教科書や教材及び指導書、さらに図書館が購入する書籍への随意契約。高額で高利益をあげる県庁をはじめ9市と8町及びその行政出先機関へのPCや高機能専門ソフト納入、それに関わる維持管理業務の持続的委託業者選定で特定地元大手企業に与える優遇措置。新幹線建設事業と原子力発電所事業に関わる人、公共事業で使う土木建設資材に